

読む人の幸せを心に願って作る

喜びのタネまき新聞

No.
633

へ「人生」という事業

先日、企業創業者のお別れ会に参列しました。

昨今の新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みて、人数制限や時間を区切つての参列やご焼香など、しっかりとした感染予防対策が施されています。

会場には遺影と共に、活躍されていた頃のお姿が映像で流れ、誕生から今日までの経歴や足跡を描いた文章や写真が展示されていて、その一つひとつから故人のお人柄がしのばれました。

また、幼少期から青春時代までのご苦労された体験談や、事業を立ち上げた当時の逸話などの展示もあり、それぞれには必ず「全ての人に感謝」という言葉が記されていたことが心に残っています。

創業者とは「事業を起こした人」のことですが、私は、全ての人が生まれた時から自分自身の「人生」という事業を起こした「創業者」だと思います。

私たちは誰もが必要とされ、誕生（創業）しました。しかし生命の期間は予測できず、自らで決めることもできません。だからこそ、自分自身の「人生」という事業を豊かにするため、「今」の時間を有意義に過ごし、一日一日を大切に、そして全ての人に感謝する日々を送りたいと思いました。



山梨県

忍野のお宮橋と桜

※イラストはイメージです

株式会社ダスキン社長

山村輝治



お祭りでは、巨大はんこを模したお神輿を地元の子どもたちが担ぐ



「はんこ日本一 六郷の里秋まつり」で白熱する“はんこの早押し”



印章のサイズや形はさまざま。中には英字や精巧な絵柄が彫られたものも



逆さ文字で、正しい字を崩さずバランスを整える“字入れ”こそが印章職人の腕



特別な思いを伝える
唯一無二の印

こうしゅうて

ぼりいんしょう

甲州手彫印章

水晶の加工技術から 発展した手彫印章

実印などで使われる大切な「はんこ」。正式名は「印章」と言い、かつて山梨県西八代郡の市川三郷町六郷地区(旧六郷町)では全国の約50%、県内の70%ほどを生産していました。その歴史は古く、御岳山系に良質な水晶が発掘されたことから江戸時代には加工技術が発展し、水晶印が生まれたと伝わっています。

もともと六郷地区では農家が副業として足袋の製造・行商を行っていたため、明治時代に

文字と文字との絶妙なバランスを求めて何度も書き直し、一週間ほど置いてまた見直して、とことん時間をかけて作り上げます。「他に同じものが二つとないから、その人を証明することができる。職人が技術と思いを込めて刻んだ印面の個性こそが、甲州手彫印章の命です」と教えてくれました。

地域で守り育てる 日本一のハンコの里

六郷地区では、はんこの製造はもちろん、材料の調達やケース作りなど、はんこに関わる産業を地域ぐるみで守り育て、「日本一のハンコの里」と呼ばれています。地区の玄関口であるJR甲斐岩間駅前では巨大なはんこのモニュメントが出迎え、町の印章資料館には地元の職人が協力して作った日本最大級のはんこや、1500人以上の住民が参加してギネス記録となったはんこのスタンプ画が飾られています。例年11月に開催する「はんこ日本一六郷の里秋まつり」では、地元の人が企画した「はんこの早押し」や、「逆さ文字書き」などの競技が白熱するのだそう。

また、望月さんを始めとする職人は、県内の小学校でははんこ作りの体験授業を行っており、その参加人数は年間2千人に上るのだとか。「子どもたちは自分の名前から一字を選び、石の印面に一彫り一彫り丁寧に刻みつけます。出来上がったはんこ



水牛、柘植、水晶などそれぞれの印材に応じた手彫り技術があり、百年以上の技法と印材を用いて、六郷などの特定地域で作られたものは伝統的工芸品に指定されている

入ると、はんこも行商で販売するようになり、後に、はんこのカタログ販売も行われたそうです。このようにして注文が増え、次第に多くの職人が育ち、優れた技術が継承されるようになりました。そして現在、伝統的な技法を用いて職人が一本一本手作業で彫った印章は、「甲州手彫印章」と呼ばれています。

山梨県印章店協同組合の理事長を務め、伝統工芸士でもある望月一宏さんによると、最も重要な工程は意外にも「彫り」ではなく、印面に文字を配置する「字入れ」だとか。枠と文字、

は、自分の書道作品に押ししたり、10歳の時に行う「二分の一人式」で親に渡す手紙や、卒業記念品に押ししたりするそうです」と、はんこが家族や地域の絆を深めていると話してくれました。

飛鳥時代から、証明や証拠を残すための道具として使われてきた印章。今後はデジタル化が進むと言われていますが、望月さんは「例えば婚姻届の最後に押印する時のような、はんこを押す時の特別な思いは他には代え難いもの。大切な書類や作品、手紙などに押す時の改まった気持ちも感じてもらえたらいいですね」と語ります。

甲州の水晶印から始まった甲州手彫印章。唯一無二の印には、職人と地域の誇り、使い手を感じる心も刻み込まれていました。

甲州手彫印章のふるさと
山梨県市川三郷町

甲府盆地の南西部に位置する旧市川大門町、旧三珠町、旧六郷町の3町が合併し、「市川」「三」「郷」のそれぞれの文字を取って生まれた町。はんこ以外に、花火や和紙などの伝統産業も盛んな、ものづくりの町として知られている。

台所の相談室

家ではなかなか上手にできない：そんな声が多いのが、天ぷらです。難しいと敬遠せず、コツをつかんでおうちで揚げたてを楽しみましょう。

FILE 17

何度も何度も揚げて、慣れることが一番の近道です。



ひだかずを 飛田和緒さん

料理家。1964年、東京都生まれ。独自のアイデアレシピが人気。『いちばんおいしい野菜の食べ方』（オレンジページ）を始め、著書多数。



お悩み

春になると、近所で山菜採りをします。夫の好物なので毎年天ぷらにしますが、なぜか私が揚げるとベチャツとしてうまくできません。家庭でもカラッと揚げられるコツがあれば教えてください。

(広島県・女性)

天ぷらは永遠のテーマのようなもの。衣と具材、油の温度の三つが合わないとうまくいきません。私も時々ベトツとなったり、サクツでなく、ふんわりしたりもします。そういう時は急いでいたり、水気を拭いていなかったり、やはり大事な部分を省いているのです。揚げ物をいわず、何度も揚げて慣れるのが一番。油と仲良くなりましょう。

衣にくぐらせる前に、具材に小麦粉をふるのも一つの手。あとは油の温度に注意します。衣を落としてジュワツとすぐに反応してカリツと揚がったら、スタートの合図。ここで衣の具合も確認します。油の温度が下がらないよう、一つ入れたら、一呼吸おいて次を入れるように。最初に揚がった天ぷらを見れば、衣や油の具合を調整できるので、

失敗もしません。早く済ませよう、なんて考えはなしですよ。揚げる時間は短いのですから、天ぷらは楽な献立とも言えます。おうちでは軽い口当たりの衣で揚げられるのがいいところ。毎回新しい油でなくていいのですが、使い古しは劣化していることもあるので注意を。下ごしらえと、食卓を整えて、揚げるのは最後。揚げたてを味わって。

Answer Recipe



天ぷら

材料(2人分)

- アスパラガス …… 6本
- 玉ネギ …… 1/2個
- 小麦粉 …… 適量
- ベーキングパウダー …… 小さじ1/2
- 塩 …… 適量
- 冷水 …… 1カップ弱
- 揚げ油 …… 適量

※揚げ油は、あれば米油がおすすめ

作り方

- 1 アスパラガスの根元は皮がかたいので、切り口から5cmくらいをピーラーで薄くむき、半分の長さに切る。小麦粉をふって絡めておく。
- 2 玉ネギは薄切りにし、小麦粉を絡めておく。
- 3 ボウルに小麦粉1カップとベーキングパウダー、塩を一つまみ、冷水1カップ弱を合わせ、軽く混ぜて衣を作る。
- 4 油を170度に熱し、衣を2〜3滴ほど落として油の温度と揚がり具合を確認してから、①を衣にくぐらせて揚げる。
- 5 玉ネギは小さなボウルに1/6ほど入れ、衣を小さじ1ほど加えて絡め、油にそっと入れて揚げる。
- 6 油をよく切り、塩などを添えて盛り付ける。

※アスパラガスと玉ネギにふる小麦粉の量は、小さじ2くらいが目安

飛田さん、どうも



具材は必ず水気を取ること。特に野菜は切り口から水分が出てくるので丁寧。水気がある具材は衣を付ける前に小麦粉をまぶすと、水分がコーティングされ、衣の絡みも良くなります。衣にベーキングパウダーや片栗粉を混ぜるとカラッと揚がりやすく、慣れない方は天ぷら粉に頼つてもいいと思います。

台所のお悩み事をお寄せください。

お料理について気になることや、ちょっとしたお悩みを、飛田さんに相談してみませんか？ お便りをお待ちしています。宛先は裏表紙をご覧ください。





お嫁さんとお花見

山形県山形市 齋藤 美子さん



コロナ禍が続いていますが、私は幸いなことに、桜の花をじっくりと眺められています。というのも、次男のお嫁さんが、「お花見に行きませるか?」としばしば誘ってくれるからなのです。

足が少し不自由な私のために、玄関先まで迎えに来てくれ、車であちこちの桜を見に連れて行ってくれます。おかげで、五分咲きから満開のものまで楽しむことができました。

きつと、一人暮らしの私を何気なく気遣ってくれているのでしょうか。今、こんなに幸せを感じていられるなんて、と感謝感謝です。

桜の花とお嫁さんの優しさが心に響く
和やかなお花見ですね。

孫のタンポポ

富山県高岡市 金 小夜子さん



タンポポが大好きな孫と一緒に、近くの公園に行った時のこと。園内にはタンポポの花がいっぱいで、三輪車に乗る孫の左手には丸い綿毛がきれいなタンポポが。

風が冷たくなったので「おうちに帰ろうね」と私が声をかけ、孫は小さな足で三輪車のペダルをこいで一緒に帰路へ。すると、そこへ強い風が吹いて孫のタンポポの綿毛があつという間に飛んで行ってしまったのです。

「風さん、ダメでしょう。強く吹いちゃダメ!」と、風に向かって怒る孫。その姿がかわいくて、私は思わずプツと噴き出してしまいました。

飛んでいったタンポポの綿毛は、きつと来年、花を咲かせてくれるはず!

桜とお城

岐阜県中津川市 加藤 ひさ子さん



私が住んでいる町に、苗木さくら公園という桜の名所があります。ここで初めて桜を見た時、あまりの見事に圧倒されました。それからは毎年、お花見に出掛けています。

近くには国の指定史跡で、続日本100名城にも選ばれている苗木城跡があり、「こんなに高くて険しい岩山に、お城が築かれていたのか」と驚かされます。そして、山頂にある天守跡の展望台からの景色が、また素晴らしいのです。今年も開花の時期が今から楽しみです。

春色の公園と岩山の城跡だなんて雄大で美しい景色でしょうね。

春を待つだるま

大阪府吹田市 中谷 統子さん



あまりにもかわいかったので、うずら卵ぐらいの大きさの「消しゴムだるま8個入り」を買いました。そして早速「夫婦そろって桜が見られますように」と祈念して、マジックで片目を入れ、ガラスケースの中へ。

あれから3年、今も役目を待っているだるまちゃん。幸い今年も夫婦元気にその日を迎えられそうです。「これから先も、夫と一緒に花見ができるように」と念じつつ、残り5つのだるま全てに両目が無事入れば、また新しいだるまを用意しよう!と心に決めています。

桜の季節に願いを叶えるだるまさんは春の幸せを運んでくれるみたい!

頑張ったよ

長野県南佐久郡 小山 文枝さん



孫が4月から保育園へ行くようになり、母親である娘も仕事に復帰することになりました。今までは違う生活が始まり、娘からの頼みで最初の週は私が孫を保育園まで迎えに行くことに。

孫にとっては母親から離れて長い時間だったのでしよう。私が迎えに行くとき、泣いていたのか、かすれた声で「ばば、和ちゃん頑張ったよ」と言っていて飛びついて来たのです。私も思わず涙がこぼれてしまいました。

孫が笑って保育園へ行く日が早く来るよう願っています。

おばあちゃんが迎えに来てくれて安心してうれしかったのでしようね。

自慢のフルーツ

福岡県うきは市 瀧内 恵美子さん



私の住む町は、大分と福岡の県境にあります。小さな町ですが、四季折々に味わえるフルーツが自慢。

春のいちごに始まり、桃、ブルーベリー、ぶどう、梨、柿と続きます。特に桃、ぶどう、梨、柿は品種が多く、長い間楽しめる上、生フルーツはもちろん、フルーツを使ったソフトクリームも絶品なんですよ! ちよつとした、私のふるさと自慢です。

季節の果物が次々に実るなんて素敵! 食卓を華やかに彩ってくれそうですね。

燈々無尽

おろかも

ほめられると、うれしくなる。

反対に、自分の欠点や

いやな事を言われると、腹が立つ。

これは、

人間誰でも持っている感情である。

それを素直に認めるべきである。

ところが、世の中には、人をせめ、

気にさわる事を言うて、

得意になってしている人がある。

人情を知らぬおろか者である。

いやな話を、

よろこんで聞いて反省を。

ダスキン創業者 鈴木清一

愛の輪通信

ダスキンが設立した「愛の輪基金」とは

1981年の国際障害者年に「障がいのある方の自立と社会参加を支援したい」との願いから、「広げよう愛の輪運動基金」は設立されました(現ダスキン愛の輪基金に変更)。主に、障がいのある人を対象とした国内外での研修事業を行っており、

これまでに662名が修了しています。

現在、会員数は約18万8千名。ミスタードーナツでは、レジのそばにパンフレットと募金箱を設置して、

広く参加を呼びかけています。今後はこちらのコラム

で研修生たちの気付きや思いなどを紹介してまいりますので、少しでもご興味

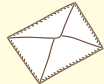
を持っていただけたら幸いです。



このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。 ☎06-6821-5270 🌐https://www.ainowa.jp/

愛の輪は、日本とアジア太平洋の地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。





あなたのお便りや写真をお寄せください。

皆様からお送りいただいたお話をもとに新聞を作っています。あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をどうぞお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、お名前、ご年齢、ご職業、ご住所、お電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真には、ささやかなお礼品をお送り致します。
- 作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであしからずご了承ください。

- 本号は、2021年1月～2月に制作したものです。状況によって記載内容が変更となる場合がございます。

桜がキレイだなあ



岩手県
滝沢市
梅澤
奏衣さん

華やかな枝咲きチューリップ!



広島県
東広島市
浅海
篤子さん



読者の皆様からお送りいただいた素敵な1枚をご紹介します。

お散歩途中に一休み♪



兵庫県加西市
小池 ゆかりさん

うさぎに変身したよ!



埼玉県
入間郡
中川
弘子さん

栃木県
大田原市
西海石
圭子さん

庭の芝桜とうさぎのけん君♡



福岡県
久留米市
吉田
公子さん

木蓮と早咲きの桜♪



No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます。

<https://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



引越しのおそうじにはダスキンモップが便利!
引越しのお手続きは、担当店・Webページ
ダスキンコンタクトセンター 0120-100100 まで



株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様の個人情報はご投稿の掲載や、今後の紙面制作に利用させていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記の株式会社ダスキン コンタクトセンターまでご連絡ください。

0120-100100 www.duskin.co.jp

60-1C 2021.4 3445250